

多摩永山中学校だより

編集・発行 校長 佐藤 信雄

<http://schit.net/tama/ihtamanagavama/>

スピリット オブ セント ルイス Spirit of St. Louis

校長 佐藤 信雄

生徒の皆さんは、チャールズ・オーガスタス・リンドバーグ (Charles Augustus Lindbergh, 1902年2月4日～1974年8月26日) という人物をご存じでしょうか? 一般的には、チャールズ・リンドバーグと呼ばれています。米国の英雄的な飛行家 (操縦士・パイロット) だった方です。

リンドバーグが一躍有名人となり、米国の英雄的存在となったのは、彼が飛行機で大西洋単独無着陸飛行に成功した1927 (昭和2) 年5月の時からでした。それまで、米国とヨーロッパの間の大西洋を、たった一人で、途中で一回も着陸することなく飛び続けて横断できた人はいませんでした。多くの飛行家たちが挑戦しましたが、成功できた者はいませんでした。2人組で交代しながら操縦したペアは成功しましたが、たった一人で30時間以上もかけて飛び続けて大西洋を横断した飛行家は、一人もいませんでした。それほど困難な冒険でしたから、成功した者には25,000ドルの賞金が与えられることにもなっていました。

それまで陸軍の飛行機や郵便飛行機の操縦士をしていたリンドバーグも、この冒険に挑戦しようと決心しました。しかし若い彼には、大口のスポンサー (資金提供者) がいませんでした。大西洋横断用の飛行機を用意する資金が少なかったのです。リンドバーグは資金提供者を探して回りましたが、なかなか見つかりません。ですから、もともと予定していた比較的高価で性能の良い飛行機にも手が出ません。そんな中にも、賞金を獲得しようと有名な飛行家たちが高価で優秀な飛行機を準備している情報が飛び込んできます。そしてリンドバーグのもとにも「エンジンを3つつけた大きな飛行機がいいよ」「交代できる操縦士と一緒に、飛行艇で飛ぶのがお薦めだよ」といろいろな助言が舞い込んできます。けれども資金が乏しく無名のリンドバーグに、大きくて高価な飛行機は用意できないのでした。それに、リンドバーグには、幼いころ父親から聞かされた言葉が胸に残っていました。「いいかい、チャールズ。人は一人で一人前。二人だと半人前。三人だと結局ゼロになるよ。」という言葉が。彼はおそらく30時間以上かかる横断飛行を、たった一人で飛びきることを決心します。

しばらくたってからのこと。ようやく若い彼に資金を提供してくれたのは、セントルイスの小さな銀行でした。リンドバーグは小さなライオン飛行機会社に大西洋横断用の飛行機の製作を依頼します。完成が近づくにつれて、彼はその飛行機、一緒に大西洋を横断する愛機に、名前を付けようと考えました。どんな名前がよいでしょうか? そんな時、リンドバーグは資金を提供してくれたセントルイスの銀行の人間の言葉を思い出します。「いいかい、チャールズ。このお金は、セントルイスの人々の魂なんだよ。」そうだ、僕は一人で飛ぶのではない、セントルイスの人々の魂と共に飛ぶのだ、そう思い至ったリンドバーグは、飛行機に「スピリット・オブ・セントルイス (Spirit of St. Louis=セントルイスの魂、精神)」と名付けました。

1927年5月20日、リンドバーグは愛機でニューヨーク州ロングアイランドの飛行場をたった一人で飛び立ちました。途中で襲ってくる疲労や睡魔と闘いながら、彼は33時間を飛び続けます。そして、彼は夜の大地に都会の灯りを見ます。パリの町が眼前に開けてきたのでした。この時彼が言った言葉が「翼よ、あれがパリの灯だ」と伝えられています。(今はこれは脚色だとされています。) パリの飛行場には大勢の人々が出迎えに集まっており、単独無着陸大西洋横断飛行を初めて達成したリンドバーグは、一躍成果的な英雄となったのでした。ある新聞記者が尋ねました。「一人で飛んでいて大変ではありませんでしたか?」リンドバーグは胸の内でお答え。「僕は一人ぼっちではなかったよ。だって僕は、セントルイスのみんなと共に飛んでいたのだから。」と。

生徒の皆さんもこんな思いをしたことがあるかもしれませんし、まだの人はきっと、これからするでしょう。

「私は今、一人でいる、でも私は決して、孤独ではない。」と、心の底から思える体験を。

ところで、リンドバーグのように空を飛んだネズミのお話をご存じですか? ドイツの港町に仲間と楽しく暮らしていた小ネズミがいました。ある日、仲間が突然いなくなりました。多くの根角がネズミ捕りを避けてアメリカに逃げた、と知った小ネズミは、空を飛んで仲間のもとに行こうと決めます。そして…というお話です。

学校図書館の「司書の太鼓ぼん」として秋山先生がお薦めしてくださっている絵本『リンドバーグ 空飛ぶネズミの大冒険』をぜひ手にとって読んでみてください。幸せなひと時があなたを包んでくれることでしょう。

多摩市と学校からのお知らせ

多摩市家庭教育学級（講演とあたご Space 説明会）のお知らせ

日時 令和6年2月3日（土）9:30～11:00
場所 多摩市立東愛宕中学校 クラブハウス
内容 第1部 講演 「子どもが学校に行きたくないと言ったら、親はどうすればよいか？」
講師 明星大学心理学部心理学科教授 福田 憲明 先生
第2部 説明会 「子どもが安心して学校生活を送れるあたご Space とは？」
説明役 多摩市教育委員会
申込 不要 お気軽にご来訪ください。
問合せ先 多摩市立東愛宕中学校 副校長 加々宮 先生 電話 042 (374) 9781

※ 来年度からのあたご Space 利用をご検討中の生徒の保護者様は、よろしければ、ご参加ください。

書き損じはがきキャンペーンご協力の御礼

12月に皆様にご案内しました、恵泉女学園大学主催の「書き損じはがきキャンペーン」に多くの方からご支援を賜り、ありがとうございます。1月25日（木）現在、163枚のハガキと、9枚の未使用切手が届けられました。みなさまのご支援に深く感謝申し上げます。

なお本キャンペーンは2月9日（金）までとなっております。まだ間に合いますので、もしお手元に書き損じのハガキなどがございましたら、本校2階校長室入口まで、お子様を通してお届けくだされば幸いに存じます。よろしくお願いいたします。

永光祭・展示の部が開催されました

1月15日（月）から19日（金）の5日間、本校多目的ホールにて、永光祭・展示の部が開催されました。この期間は、美術や家庭科等の授業で制作した作品や、八ヶ岳での移動教室の機会を活用した研究発表、国語の書写の作品、理科の観察スケッチ、家庭科部の育てた野菜やブルーベリージャムの販売などが行われました。19日（金）には小学生の皆さんも来校していただき、中学生の力作を興味深そうに鑑賞してくれました。中には書写の作品を指さして「上手だなあ」と嘆息していた男子もおり、作品を書いた本人がここにいたら大喜びしてくれそうだなと思う場面もありました。野菜販売の当番をお引き受けくださった保護者の皆様、ご来校いただいた皆様、展示の部をお支えしていただき、生徒の力作をご鑑賞くださったことに、心から感謝申し上げます。



躍進する部活動 それ行け！たまなが中生！【敬称略】

敬称略

○剣道部

如月杯争奪剣道大会 準優勝 令和6年1月21日 寒さに負けずの成果、おめでとうございます。